

広島baumクーヘン振興協議会 設立趣意書

人口 119 万人の政令指定都市・広島市の南区にある離島「似島」は、広島港からフェリーで約 20 分と、気軽に訪れることができる周囲約 16 キロメートルの自然豊かな島です。また、似島は、かつての「軍都広島」を支えた戦争遺構が多く残る島でもあり、第一次世界大戦当時に捕虜となったドイツ人菓子職人カール・ユーハイムが収容されていた施設も似島にありました。カール・ユーハイムは、この似島の地で、日本で初めてbaumクーヘンを焼き上げ、1919 年に広島県物産陳列館（現在の原爆ドーム）で開催されたドイツ人捕虜技術工芸品展示会に出品・販売し、広島市民から大好評を博しました。また、当時のドイツ人捕虜の中にはサッカーの選手もいて、日本で初めてサッカーの国際親善試合が開催されたのも似島であったと言われています。

その後、似島は「日本のbaumクーヘン発祥の地」であることを地域の宝とし、2018 年からは毎年、民間主体の実行委員会によってbaumクーヘンの名前を冠したスポーツ大会が開催されるようになったほか、2019 年には似島baumクーヘン 100 周年記念行事として、長さ 2019 センチメートルという世界一長いbaumクーヘンづくりを官民一体で成功させました。

おいしいお菓子を食べると、自然と笑顔がこぼれます。たとえ相手の話す言葉が分からなくても、お菓子を通じて人間同士がつながり合える。人々を笑顔にさせるお菓子は、まさに平和の架け橋となるものです。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻やイスラエル・パレスチナ情勢の悪化、北朝鮮による弾道ミサイル開発など、世界情勢が混迷を深める中、人類初の原爆被爆都市・ヒロシマに生きる菓子職人として、次世代に平和のバトンをつなげるためにできることは何か―

そう考えたとき、捕虜という立場を超えて、材料も燃料も不足する中、広島市民のためにbaumクーヘンを焼き上げたカール・ユーハイムに光を当てること、そして似島が「日本のbaumクーヘンの発祥の地」であることを日本中、世界中に認知していただき、おいしいお菓子づくりを通じて世界を笑顔にしていくことこそが、私たちにできることではないか、と思いついたのです。

広島を訪れる国内外の方々に、一人でも多く「日本のbaumクーヘンの発祥の地」である似島を知っていただき、広島のbaumクーヘンのおいしさとともにその史実を広めていただく。その想いを実現するためには、baumクーヘンづくりに携わる多くの皆様方との連帯が何より重要となります。

2024 年 4 月には、似島で観光客や企業研修等の宿泊拠点となる「ユーハイム似島歓迎交流センター」がオープンします。baumクーヘンがもみじ饅頭に次ぐ第二の広島土産として万人に認知されることを目指し、この機会を捉えて、関係者が一致団結して広島baumクーヘンの振興に取り組めるよう、「広島baumクーヘン振興協議会」の設立を皆様にご提案申し上げる次第です。皆様のご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

設立発起人代表

株式会社櫟 代表取締役社長 兼田 貴代